

KOGA IDOL

今月の古河っ子

いいこが育つ古河



鈴木涼真くん
(令和2年4月生まれ・女沼)
パパとママの癒やし♡元気いっぱい大きく育ってね!
(父：祐一、母：麻衣)



山中英ちゃん
(令和3年4月生まれ・上辺見)
楽しい毎日进行がありがとう♡これからもよろしくね!
(父：哲、母：侑加)



今泉柊花ちゃん
(令和3年12月生まれ・原町)
毎日笑顔で癒やしをありがとう♡元気に育ってね♡
(父：諒介、母：桂子)



加藤香凛ちゃん
(平成30年12月生まれ・西牛谷)
お写真とダンスが大好きなかりんちゃん
(父：洋、母：実紗)

お子さんの写真を募集中！ <対象> 0～3歳の市内在住のお子さん <応募方法> メール・電話で受付中。メールの場合は件名を「今月の古河っ子応募」とし、本文に「お子さんの氏名(ふりがな)・生年月日・父母の氏名・住所・電話番号」を明記し、city.pr@city.ibaraki-koga.lg.jp(☎シティプロモーション課☎92-3111)へ申し込みください！



わたしの夢

みんなを笑顔にするまんがを 佐山実弥子さん 名崎小学校6年生

わたしの夢は、まんが家になることです。小さいころから絵をかくことが好きで、将来は絵をかく仕事が出来たいと思っていました。そんな時、草凧みずほ先生の『暁のヨナ』というまんがに出会い、「こんなきれいな絵をかけるまんが家になりたい」と思いました。

まんが家になるまでの道のりは遠くて、とても大変だと思います。しかし、読んでくれた人が感動したり、笑顔になったりするようまんががえがけるまであきらめないで、がんばっていきたいと思います。



キラリ 古河ビト

交通事故ゼロを願って
全国各地に木彫りのカエルとついでたてを寄贈
塚原幸一さん(80歳・尾崎)

交通事故ゼロを願う「交通安全」「疫病退散・絆」と書かれた2種類のついでたてとカエルの置物を全国に寄贈する塚原さん。宮大工で身に付けた技術を生かし、自治体や警察署など約29年間で100カ所以上に寄贈してきました。体力が続く限り制作を続けたいと話す塚原さんにお話を伺いました。

16才で大工となり、住宅や寺社の設計・建築に携わってきた塚原さん。一級建築大工技能士の資格を持ち、過去には出雲大社茨城講社の建設にも携わったことがあるそうです。54才の時に病気を患い、3年間の闘病生活の末、病気を克服しました。入院先の病院から自宅に戻った際、あらためて命の大切さを実感したそう、無事に帰るといふ願いを込めて、カエルの置物とついでたての製作を始めます。最初の作品は結城警察署へ寄贈され、その後も29年間に渡り、台風で甚大な被害を受けた青森県風間浦村や東日本大震災で被災した福島県浪江町・楢葉町など、100体以上が日本全国に届けられました。ついでたてと置物一式の制作期間は2週間程度。硬い材質のケヤキを用いるため彫るのに苦労しますが、その分耐久性があり、塚原さんの思いは今後何百年も受け継がれていきます。

「もうそろそろ体力も限界。自分なりにやり切った感じはある」と謙遜しながらも、県内全ての警察署や自治体に寄贈をしたいと熱いまなざしを語ってくれた塚原さん。寄贈先から贈られた感謝状が数多く並ぶ作業場で、一人でも多くの人に命の大切さを伝えるため今日もノミを打ち込んでいます。



▲制作に打ち込む塚原さん



▲完成した「交通安全」のついでたて



▲作業場に並ぶ多くの感謝状